

はじめに

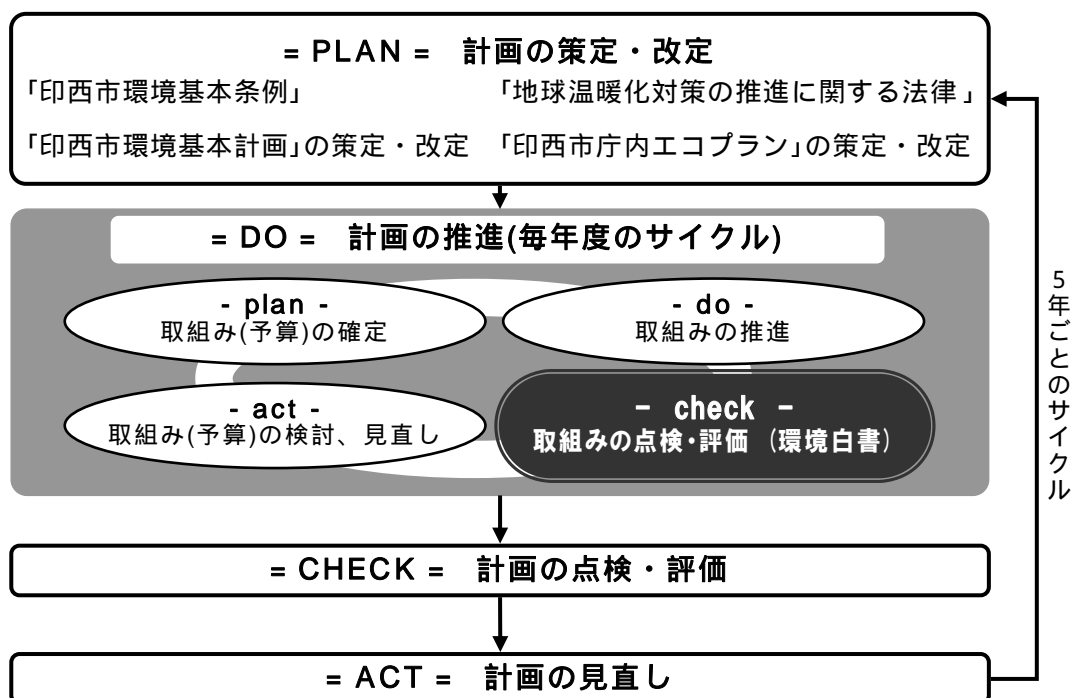
1 環境白書作成の趣旨

印西市では、環境の保全に関する理念や基本的な枠組み等を定めた「印西市環境基本条例」を平成11年4月に施行し、その具体化に向けて、環境施策を総合的かつ計画的に進めることを目的とした「印西市環境基本計画」を平成15年3月に策定（平成19年度に改訂）しました。また、印西市における地球温暖化対策として、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、市の事務・事業の中で環境に配慮すべき具体的な事項を定めた「印西市庁内エコプラン」を策定しました。

環境基本計画と庁内エコプランでは、plan・do・check・actの繰り返しによる計画推進の仕組み（pdcaサイクル）により、計画全体の継続的な改善を図ってきました。

本環境白書は、pdcaサイクルの“check”（取組みの点検・評価）に相当し、環境基本計画に係る様々な取組みについて、実践状況などを点検・評価し、今後の取組みに反映していくための報告書として、市民の皆様公表するものです。

《 進行管理の流れ 》



本文中、印の付いている用語の解説は、資料編 P.82 用語解説をご覧ください。

2 環境基本計画の概要

印西市では、これまでの取り組み状況を再確認し、環境に関する新たな法律や社会動向の変化に対応するため、平成 19 年度に環境基本計画の改訂を行いました。計画期間は平成 20 年度から 24 年度までの 5 年間で、平成 25 年 3 月には新たな計画を策定しました。なお、この白書では特に記載のない場合には平成 24 年度までの旧環境基本計画について記載しています。

環境基本計画では、環境に関する長期的な目標である「目指す環境の姿」を定め、これを実現するための施策の方向性である 3 つの「基本目標」と 15 の「個別目標」を設定しています。さらに、各個別目標には、担当部署と具体的な施策を示した「環境施策」が対応します。また、市の環境の現状を踏まえ、優先的に対策を講じる必要のある施策として 3 つの「重点プロジェクト」を設定しています。

◇ 目指す環境の姿

大切な自然と安心できる暮らしをみんなで守り、育てるまち いんざい

◇ 基本目標 1 自然を身近に感じられる “まちづくり”

昔ながらの自然環境と新たに開発された都市環境が共生していくために、樹林地や農地を守り育てる仕組みの構築や、市民のニーズに対応した公園・緑地の整備・充実、また、さまざまな生き物の保全などを通じて、自然を身近に感じられるまちづくりを進めていきます。

◇ 基本目標 2 安心して生活できる “暮らしづくり”

急速な人口増加と宅地開発などにより、家庭からの排水や自動車の排出ガス、ごみなどの日常生活による環境への負荷が増大しています。

市民が安心して生活できるように、限りある資源を大切に、環境への負荷を減らしていくとともに、環境に配慮した循環型社会の形成を目指します。

◇ 基本目標 3 みんなで環境を育てる “しくみづくり”

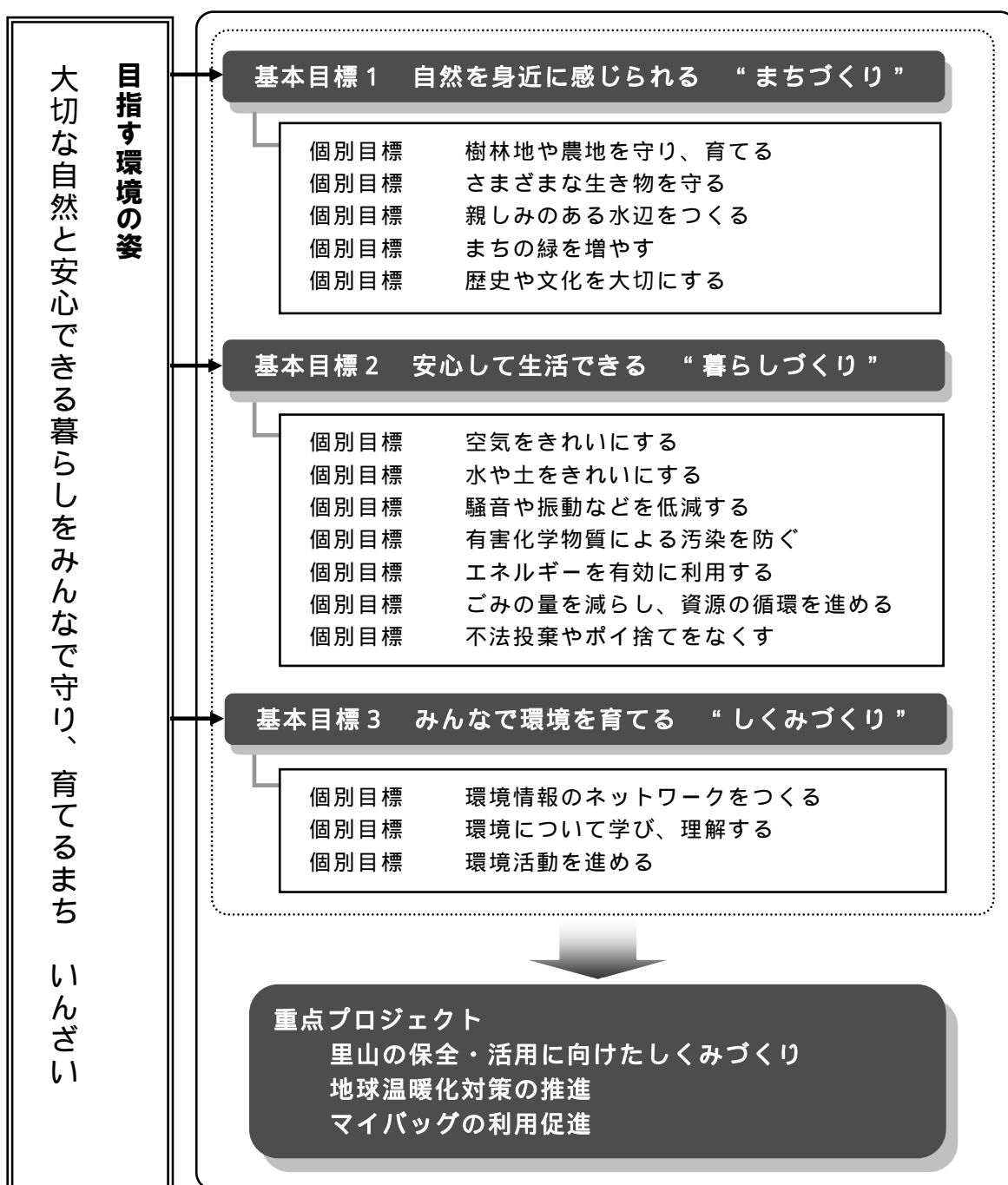
市民・事業者・市の各主体が、環境に関心を持ち、環境に対する人の責任と役割を理解し、環境活動に参加・協働 できるようなしくみづくりを目指します。

また、市民や事業者などからの意見・要望、さらには市民の創意工夫による地域づくりの提言など、市民の声を広く聴くとともに、さまざまな市民活動を支援していきます。

◇ 重点プロジェクト

個別目標における市の取組みのうち、印西市の環境をより良くする上で、他の施策より優先的な取組みが求められる施策及び着実な進展が求められる事項を抽出し、「重点プロジェクト」として、より具体的・重点的な取組みを推進していきます。

■ 環境基本計画の体系






3 環境指標の達成状況

環境基本計画では、目指す環境の姿の実現に向けて、将来を展望した長期的な目標（目標年度：平成24年度）を個別目標として示しています。

各個別目標には、その達成状況を知るための目安として環境指標が設定されており、計画の目標値や前年度との比較により、継続的に点検・評価を行っています。




《 環境指標の評価の見方 》

評価	評価内容
	目標値を達成することができました。
	目標値を達成することができませんでしたが、平成23年度と比較して、目標値に近づいています。
	目標値を達成することができませんでした。平成23年度と比較しても目標値に近づいていません。
-	環境指標の設定、現状値の把握をしていません。

◇ 基本目標① 自然を身近に感じられる“まちづくり”

個別目標「**緑地面積の割合**」及び「**生き物の生育・生息種数**」に環境指標が設定されており、そのうち2つで目標を達成しました。市民一人当たりの都市公園面積は目標値である16.6㎡（緑の基本計画）の達成にはいたりませんでした。

■ 環境指標の進捗状況 - 基本目標①

個別目標	環境指標	目標値	平成23年度	平成24年度	評価
	緑地面積の割合	39.8 % (緑の基本計画)	55.3%	54.9%	
	生き物の生育・生息種数	印西市自然環境調査報告書(平成18年3月)における確認種数 (植物:679種 動物(哺乳類):7種 (鳥類):78種 (爬虫類):6種 (両生類):6種 (昆虫類):129種 (魚類):14種) 現状を維持	印西市自然環境調査報告書(平成24年3月)における確認種数 植物:803種 動物(哺乳類):9種 (鳥類):102種 (爬虫類):11種 (両生類):6種 (昆虫類):387種 (魚類):24種	-	 H23
	「親しみのある水辺をつくる」は、環境基本計画で指標が設定されていません				
	市民一人当たりの都市公園面積	16.6㎡ (緑の基本計画)	15.53㎡	15.22㎡	
	「歴史や文化を大切にする」は、環境基本計画で指標が設定されていません				

備考1) 個別目標「緑地面積の割合」の目標値は、環境基本計画で40%以上と設定していましたが、緑の基本計画の中間年度(平成22年)の目標値に合わせ、39.8%と変更しています。(いずれも旧印西市における目標値。)

備考2) 個別目標「生き物の生育・生息種数」については、調査を実施した平成23年度の結果で評価を行いました。

◇ 基本目標② 安心して生活できる“暮らしづくり”

安全・安心な生活に関わる大気質や水質、土壌、騒音・振動及びダイオキシン類等の有害化学物質については、市内の現状を継続的に把握するとともに、環境対策の実施や啓発に取り組みました。

大気質、土壌及び道路交通騒音・振動に関する環境指標値（個別目標 ～ ）は、ほぼ全ての目標を達成しましたが、師戸川の BOD 濃度と道路交通騒音測定値は環境基準を超過しました。

合併処理浄化槽 設置率については、合併前の市域における目標値であったため、合併後は全市域の普及率で評価を行っています。

■ 環境指標の進捗状況 - 基本目標②（１）

個別目標	環境指標	目標値	平成 23 年度	平成 24 年度	評価
	二酸化窒素 (NO ₂)濃度 (印西高花測定局)	0.04 ppm 以下 (千葉県環境目標値)	0.032 ppm	0.032 ppm	😊
	浮遊粒子状物質 (SPM) 濃度 (印西高花測定局)	0.10 mg/m ³ 以下を維持 (環境基準)	0.064 mg/m ³	0.046 mg/m ³	😊
	亀成川の BOD 濃度	3 mg/l 以下を維持 (環境基準)	1.5mg/l	1.2mg/l	😊
	神崎川の BOD 濃度	2 mg/l 以下を維持 (環境基準)	1.4mg/l	1.3mg/l	😊
	師戸川の BOD 濃度	3 mg/l 以下を維持 (環境基準)	4.9mg/l	5.4mg/l	😞
	下水道普及率 (処理区域内人口/行政人口)	現状より増やす 合併後(H22)は 80.0%	80.3%	80.8%	😊
	合併処理浄化槽普及率	現状より増やす 合併後(H22)は 75.7%	77.0%	79.2%	😊
	土壌の汚染に係る 環境基準の達成状況	全調査地点、全項目の 達成を維持	調査地点:3 地点 全項目基準を達成	調査地点:3 地点 全項目基準を達成	😊
	地下水の環境基準の 達成状況	全調査地点、全項目の 達成を維持	調査地点:3 地点で 全項目基準を達成	調査地点:5 地点で 全項目基準を達成	😊
	道路交通騒音測定値	昼 60 dB・夜 55 dB [A 地域] 昼 65 dB・夜 60 dB [B・C 地域] 昼 70 dB・夜 65 dB [幹線交通を担う道路に近接 する空間における特例基準] 以下 (環境基準)	県道千葉ニュータウ ン南環状線 (高花二丁目 6 地先) [特例基準] 昼 66 dB・夜 59 dB	県道千葉竜ヶ崎線 (木下東一丁目地先) [特例基準] 昼 74 dB・夜 72 dB	😞
	道路交通振動測定値	昼 65 dB・夜 60 dB [第 1 種区域] 昼 70 dB・夜 65 dB [第 2 種区域] 以下を維持(要請限度)	県道千葉ニュータウ ン南環状線 [第 1 種区域] 昼 35 dB・夜 26 dB	-	😊 H23

備考 1) 個別目標「水や土をきれいにする」の BOD 濃度の環境基準は、年間の日平均値の 75%水質値で評価します。

備考 2) 個別目標「道路交通騒音測定値」の目標値における「幹線交通を担う道路に近接する空間における特例基準」とは、高速自動車国道、一般国道、県道及び市道(市道に当たっては 4 車線以上の区間に限る。)に適用します。平成 23、24 年度は、測定地点が県道であったため、この特例基準と比較しました。

備考 3) 道路交通振動測定値は平成 23 年度の結果で評価を行いました。

エネルギーに関する取組みについては、市内エコプランの推進により、市が率先してエネルギー使用量削減やごみの排出抑制に努めるとともに、市民・事業者に対する情報提供や啓発を図りました。環境指標（個別目標）では、太陽光発電システム設置基数が大幅に増加しました。ただし、平成23年度の市民一人当たりの二酸化炭素排出量は、前年（平成22年度）を下回りましたが、目標値を達成することはできませんでした。

■ 環境指標の進捗状況 - 基本目標②（2）

個別目標	環境指標	目標値	平成23年度	平成24年度	評価
	ダイオキシン類 大気環境濃度	0.6 pg-TEQ/m ³ 以下を維持(環境基準)	印西市役所 0.058 pg-TEQ/m ³ 印西高花測定局 0.040pg-TEQ/m ³	印西市役所 0.031 pg-TEQ/m ³ 印西高花測定局 0.045pg-TEQ/m ³ 本埜支所 0.046pg-TEQ/m ³	
	ダイオキシン類 水質環境濃度	1.0 pg-TEQ/l 以下を維持(環境基準)	-	印西市大森地先 0.046 pg-TEQ/l (平成22年度)	 H22
	ダイオキシン類 土壌環境濃度	1000 pg-TEQ/g 以下を維持(環境基準)	滝野公園 0.84 pg-TEQ/g	木下小学校 0.036 pg-TEQ/g 大塚前公園 1.5 pg-TEQ/g	
	印西クリーンセンターの煙突出口におけるダイオキシン類測定値(年平均値)	1 ng-TEQ/Nm ³ 以下を維持(排出基準)	1号炉 0.11 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.035 ng-TEQ/Nm ³	1号炉 0.27 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.21 ng-TEQ/Nm ³	
		0.5 ng-TEQ/Nm ³ 以下を維持(排出基準)	3号炉 0.017 ng-TEQ/Nm ³	3号炉 0.00105 ng-TEQ/Nm ³	
	一人当たりの二酸化炭素排出量	平成13年度レベル 5.77 t-CO ₂ /年を維持	6.46 t-CO ₂ /年 (平成22年度値)	6.14 t-CO ₂ /年 (平成23年度値)	
	太陽光発電システム補助金交付基数(累計基数)	141基 (印西市第2次基本計画)	529基	766基	
	太陽熱温水器設置補助金交付基数(累計基数)	50基 (印西市第2次基本計画)	34基	39基	

備考1) 個別目標「ダイオキシン類水質環境濃度」については、平成23年度以降に調査を行っていないため、平成22年度の結果で評価を行いました。

備考2) 個別目標「印西クリーンセンターの煙突出口におけるダイオキシン類測定値」は、印西地区環境整備事業組合の提供資料によります。なお、3号炉については「印西クリーンセンターの操業及び公害防止に関する協定書」により、排出ガスの基準が0.5 ng-TEQ/Nm³以下と定められています。







備考3) 個別目標「市民一人当たりの二酸化炭素排出量」については、当該年度のデータを把握できないため、前年度のデータを報告しています。なお、排出量算出方法の詳細は資料編P.78に示すとおりです。

ごみ減量に関する環境指標（個別目標）では、一人1日当たりのごみ排出量が836gとなり目標値を達成していますが、平成23年度より増加しました。一方、市資源化率と総資源化率は、目標値を達成しませんでした。

不法投案件数は、不法投棄現場調査の取組みを強化したことにより近年発見数が増加しており、平成24年度は351件が報告されました。

「ゴミゼロ運動」と「クリーン印西推進運動」の参加・登録団体数は、いずれも平成23年度より減少しましたが、ゴミゼロ運動については、計画改訂時の現状値（平成18年度）の140団体を大きく上回っています。一方、クリーン印西推進運動については、計画改訂時の現状値（平成18年度）の160団体を初めて下回りました。

■ 環境指標の進捗状況 - 基本目標②（3）

個別目標	環境指標	目標値	平成23年度	平成24年度	評価
	一人1日当たりのごみの排出量	866g (印西市ごみ減量計画)	829g	836g	
	市資源化率	21% (印西市ごみ減量計画)	16%	15%	
	総資源化率	28% (印西市ごみ減量計画)	21%	21%	
	不法投案件数	0件	498件	351件	
	「ゴミゼロ運動」参加団体数	現状より増やす (印西市第2次基本計画) H18年度は140団体	春：雨天中止 (対象218団体) 秋：151団体	春：182団体 秋：174団体	
	「クリーン印西推進運動」登録団体数	現状より増やす (印西市第2次基本計画) H18年度は160団体	165団体	149団体	

備考1) 個別目標「ごみの量を減らし、資源の循環を進める」の環境指標の目標値は、改訂当時の印西市ごみ減量計画の目標値で評価しており、現行の第二次ごみ減量計画とは異なります。

備考2) 個別目標「ゴミゼロ運動参加団体数」及び「クリーン印西推進運動登録団体数」は、計画改訂時(平成18年度)の団体数との比較により評価しています。

◇ 基本目標③ みんなで環境を育てる “しくみづくり”

個別目標 ~ に設定された環境指標 5 つのうち、3 つで目標を達成しました。

印西市では環境について学習する機会を提供するとともに、市民が主体となって実施する環境活動や環境学習 への支援を実施しています。

平成 24 年度における環境講座や環境イベントの開催数は 27 回となり、目標値を大幅に上回りました。

こどもエコクラブの登録件数と「いんざい環境フェスタ」の来場者数は前年より減少し、目標値を達成できませんでした。

■ 環境指標の進捗状況 - 基本目標③

個別目標	環境指標	目標値	平成 23 年度	平成 24 年度	評価
	環境情報の提供回数	24 回を継続	24 回	24 回	😊
	環境講座、環境イベントなどの開催回数	12 回	15 回	27 回	😊
	こどもエコクラブ登録件数	7 件	2 件	0 件	😞
	環境活動団体数	17 団体	29 団体	31 団体	😊
	「いんざい環境フェスタ」の来場者数	現状より増やす (印西市第 2 次基本計画) H18 年度は 6,000 人	3,000 人	1,000 人	😞



4 環境の現状と課題

印西市では、平成 15 年度に環境基本計画を策定し、平成 24 年度まで 10 年間にわたって様々な環境施策を推進してきました。また、平成 24 年度は平成 19 年度に改訂した計画の最終年度でもあります。

ここでは、印西市を取り巻く社会情勢・環境情勢の変化を踏まえ、これまでの 5 年間における取組みを評価するとともに、今後に向けた課題を整理しました。

■ 基本目標① 自然を身近に感じられる“まちづくり”

基本目標 は、私たちの生活の基盤となる自然環境を保全し共存していくための施策群で、5 項目の個別目標からなります。環境指標は 3 項目が設定されており、平成 24 年度現在 2 項目（達成率 67%）で目標を達成しています。また、平成 24 年度に実施した市民意識調査では、8 割以上の市民が「自然を身近に感じられる」と回答しており、本市の環境について一定の評価が得られました。

印西市域には、樹林地や農地、水辺などが複合する里山 が多く残り、本市を代表する田園景観を形成しています。また、里山は豊かな生態系を育む場としても注目されており、市内では絶滅が危惧される希少な種を含む多くの動植物が確認されています。

しかし、宅地開発に伴う樹林地の減少や農業後継者不足による耕作放棄地の増加は続いており、里山環境の劣化や減少が目につきます。また、合併により一時的に増加した市域に占める緑地面積の割合も、その後は減少傾向にあります。

今後は、さらなる農業振興策や市民参加型活動の促進などを進め、樹林地や農地の量的・質的保全を図ることで、ひとの暮らしと自然が共存できる環境づくりに努めていく必要があります。

■ 基本目標② 安心して生活できる“暮らしづくり”

基本目標 は、私たちの安心・安全な暮らしを守っていくための施策群で、7 項目の個別目標からなります。環境指標は 24 項目が設定されており、平成 24 年度現在 16 項目（達成率 67%）で目標を達成しています。また、市民意識調査では、約 7 割の市民が「安心して生活できる暮らし」と回答しており、市の生活環境保全のための施策について一定の評価が得られました。

市では、生活環境に関わる施策として大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音・振動及び有害化学物質による汚染への対策を推進しており、これらに関する環境指標は、15 項目中

13 項目（達成率 87%）で目標を達成しました。目標を達成できなかったのは師戸川の水質（BOD）と道路交通騒音で、特に道路交通騒音は環境基準を超過する状況が続いています。今後は周辺市町や県との連携を図りながら、定期的な監視・測定などの施策を推進していく必要があります。

温暖化、省エネルギー、省資源という人類共通課題にも積極的に取り組んできましたが、環境指標の達成状況は 6 項目中 2 項目（達成率 33%）にとどまりました。今後は、より積極的な情報発信と PR 活動を進め、低炭素社会・循環型社会の推進に向けた意識づくりを図っていく必要があります。

市街地の美化やごみ処理に関する取組みについては、3 項目の環境指標が設定されていますが、目標を達成したのは 1 項目（達成率 33%）でした。特に市民の関心が高く、早急な対策推進が求められているため不法投棄問題については、今後もパトロールや意識啓発を強化していくことが求められます。

■ 基本目標③ みんなで環境を育てる“しくみづくり”

基本目標 は、環境施策の推進を担う人材を育成し、市民・事業者・市のパートナーシップを培うための施策群で、3 項目の個別目標からなります。環境指標は 5 項目が設定されており、平成 24 年度現在 3 項目（達成率 60%）で目標を達成しています。ただし、市民意識調査では、「みんなで環境を育てるしくみ」ができていないと答えた人の割合が約 45%で、できていると答えた人の割合（約 25%）を上回りました。

市では、環境美化活動や環境学習会、各種イベントなど、市民が参加できる機会の提供に努めてきましたが、今後も引き続き、参加機会の増加と参加しやすさの向上を図っていく必要があります。また、環境施策の推進を担う市民・事業者の参加意識を高めるため、積極的な情報提供と PR 活動を続けていくことも重要です。



5 環境審議会委員からの意見・提言

平成 25 年度版環境白書について、環境審議会委員から意見・提言がありました。

これらの意見は今後の課題として、平成 26 年度以降の環境施策等に活かしていきます。

市庁舎等の市の施設における照明や空調等の使用について、継続的な節電の取組みに努められたい。

放射能汚染対策として空間線量の測定や除染が実施されているが、対策の成果や現状のまとめを白書に掲載することを検討されたい。

ゴミのポイ捨てや適切なペットの飼育はモラルの問題であり、子供達への環境教育の推進に努められたい。

特定外来生物の対策、啓発を強化されたい。

環境基準を超過している師戸川の水質については、引き続き監視に努められたい。

自然環境の保全について、希少種を保護することにより他の生物の生育・生息地を守ることにもなるため、今後も取組みに努められたい。

家庭におけるさまざまな省エネルギー機器の導入促進など、エネルギー問題への取組みに努められたい。

6 環境推進(市民・事業者)会議委員からの意見・提案

平成 25 年度版環境白書について、環境推進会議委員から意見・提案がありました。

生物多様性 保全のため、自然環境保全に関する環境ニュースや生物に関する指標を白書に掲載することを検討されたい。

燃やすごみとして出されている雑紙やプラスチック製容器包装を分別し資源物とすること、ごみ減量が二酸化炭素排出量の削減につながることを周知されたい。

自動車交通量の増加に伴う排出ガスや焼却場の排煙などによる大気汚染を把握するため、測定点を増やすなど監視を強化されたい。

住宅や公園に隣接し市民にとって身近な調整池においても、水質調査を実施し、白書に掲載することを検討されたい。

竹林繁茂への対応や、耕作放棄地の再生・活用等を通じて緑地保全に努められたい。

環境保全活動に携わる人材の育成、ボランティア支援などの仕組みづくり、小中学校における地球温暖化問題等の環境教育に努められたい。

開発は計画的に進め、環境に配慮した安心して住めるまちづくりに努められたい。

深刻化する地球温暖化への対策として、温室効果ガスを削減し、低炭素社会の構築に向けて地産地消の推進、環境家計簿の普及等の取組み及びまちづくりを検討されたい。

環境基本計画・環境白書・環境行動指針等をより多くの市民の方々に理解していただくための方策を検討されたい。

これまでに発行した印西市環境白書



平成 16 年度版



平成 17 年度版



平成 18 年度版



平成 19 年度版



平成 20 年度版



平成 21 年度版



平成 22 年度版



平成 23 年度版



平成 24 年度版